

6,000mの深海に潜る

藤岡 換太郎 (東京大学海洋研究所)
Kantaro FUJOKA

フランスの最新の潜水艇ノチールは 母船ナジールに乗せられて日本へやってきた。

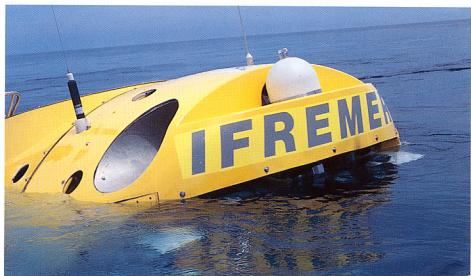
ノチールは南海トラフ 駿河トラフ 相模トラフ 第一鹿島海山 宮古沖日本海溝 禮裳海山 千島海溝などの日本近海の沈み込み帯で合計27回の潜水を行った。日本の地球科学者達は 沈み込み帯の動的な姿の目視観察やビデオ 写真の撮影 in situでの海底の試料の採集などに成功した。日本の地球科学は新しい段階に入っている。(本文参照)



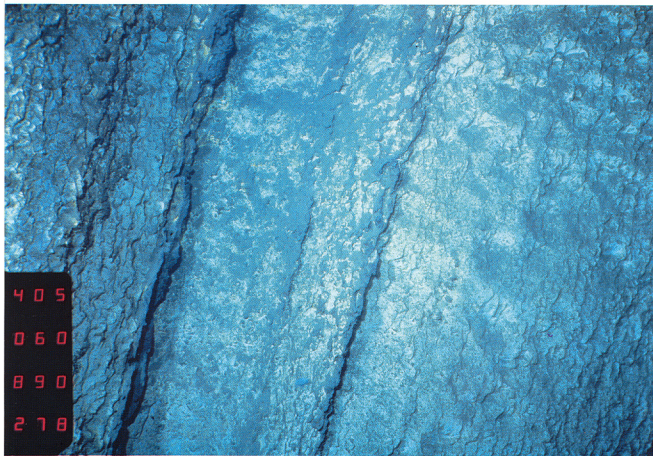
→ 写真1
ノチールの後姿と母船ナジール。



→ 写真2
正面から見たノチール。3つの観察窓 2本のマニピレータ スチルカメラ等が見える。



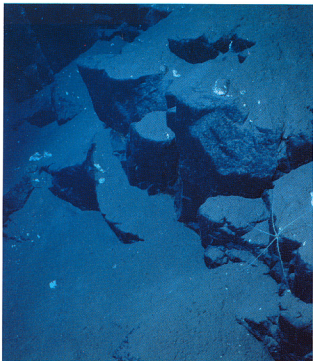
→ 写真3
着水し潜水を始める直前のノチール(筆者が中に入っている)。



405
060
890
278

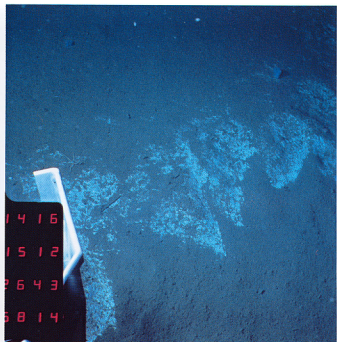
↑写真4 第一鹿島海山東半分頂上近くの石灰岩の露頭(潜水 KD-13)

↓写真5 第一鹿島海山東半分の玄武岩の露頭(潜水KD-13)

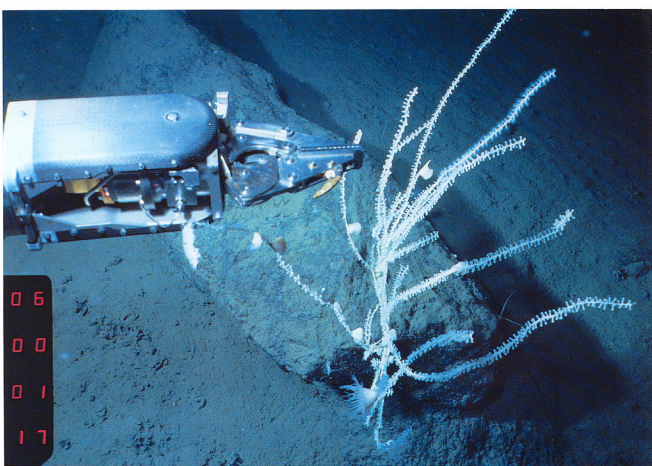


第一鹿島海山西半分の石灰岩の露頭と「ビクマ」

↓写真6 (潜水 KD-14)



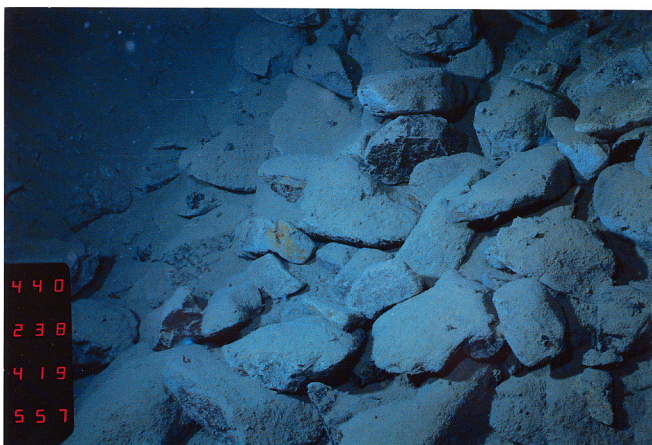
1416
1512
2643
5814



↑写真7 第一鹿島海山西半分の石灰岩の下位にくる玄武岩（潜水 KD-14）。

↓写真8 第一鹿島海山近辺の日本海溝軸の海溝底（潜水 KD-14）。





↑写真9 相模トラフ房総海底谷最下部のブレッチャ（潜水 KD-17）。

↓写真10 房総海底崖上部のよく成層した露頭の断面（潜水 KD-17）。

